

1. 本資料の目的・概要

1.1 本資料の目的

本資料は、大気安定静穏発生による沿道大気質濃度への影響及び大気安定静穏発生による沿道大気質予測への影響を検証し、現行の沿道大気質予測手法の改善の必要性について確認することを目的とする。

1.2 本資料の概要

本資料の概要は以下のとおりである。

- (1) 大気安定静穏の概要と現行の沿道大気質予測における大気安定静穏発生影響の取扱いについて
大気安定静穏の発生状況を概要整理した上で、現行の沿道大気質予測の標準的手法である「道路環境影響評価の技術手法」における大気安定静穏発生の影響についての取扱いについて解説する。
- (2) 大気安定静穏の発生状況把握のための気象観測
道路周辺における大気安定静穏の発生状況を把握するため、地表鉛直方向の気温分布や風向・風速、日射量・放射収支量に関する気象観測を、地形及び周辺状況が異なる全国6地点において、2007年11月から2010年2月までの2年4ヶ月にわたり実施した。その観測実施状況及び各地点の気象概況について整理した。
- (3) 大気安定静穏発生状況と沿道大気質濃度との関連性検証
(2)の気象観測結果等を用いて、大気安定静穏の発生状況と今回の気象観測地点周辺における沿道大気質濃度の傾向について各々整理した上で、大気安定静穏発生状況と沿道大気質濃度との関連性について検証する。
- (4) 大気安定静穏発生による沿道大気質予測への影響に関する検証
(3)の検証結果を踏まえて、大気安定静穏発生による沿道大気質予測への影響について、1)沿道大気質予測において算定するNO₂濃度の年平均値及び年間98%値への大気安定静穏発生による影響、2)NO_x変換式・NO₂年間98%値換算式・SPM年間2%除外値換算式への大気安定静穏発生による影響について検証する。